

自己評価報告書

平成23年4月20日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究（S）

研究期間：2008～2012

課題番号：20672001

研究課題名（和文） ユダヤ教の人間観—マイノリティに関するテキストのデータベース化と現代社会への提言

研究課題名（英文） Judaism's view of humankind: creation of a textual database on minorities and suggestions for modern society

研究代表者

勝又 直也（KATSUMATA NAOYA）

京都大学大学院人間・環境学研究科・准教授

研究者番号：10378820

研究分野：ユダヤ学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：ユダヤ教、ヘブライ文学、マイノリティ

1. 研究計画の概要

本研究は、ユダヤ教とマイノリティというテーマに関して、ヘブライ語、アラム語、ユダヤ・アラビア語、イディッシュ語などで書かれたあらゆる関連資料を収集、精読、翻訳、データベース化し、実証的な分析を行うことにより、マイノリティ観の根底にあるユダヤ教の人間観の本質を理解するものである。

2. 研究の進捗状況

(1) 本プロジェクトで開発したデータ入力閲覧フォームを通して、日本ではまだ紹介が始まったばかりのユダヤ教文献を、ヘブライ語原典・英語・日本語の三言語で同時閲覧できるようになった。右から左書きするヘブライ語と、左から右書きする英語、日本語を同時に入力するシステムを構築しなければならない。加えてこの三言語で検索語を設定し、それを検索するための入力システムの構築は、画期的なことである。邦訳を通して、全体的な理解を容易にし、かつヘブライ語・アラム語原典を比較参照し、原典に即した理解が可能であるし、同時に英訳を備えることで、国際的に通用するフォームを呈している。

(2) 本データベース構築作業を通して、ユダヤ教における人間への関心の強さが様々な形で明らかになった。本プロジェクトにおいては、人間観、マイノリティ観を検索するタグとして何を設定するかが、絶えず問題となった。それを広義で設定するか、狭義で設定するかが論議の的となった。最初にスタートしたヘブライ語聖書では、広義で検索語を収集する方針であった。その結果、膨大な検索語がヒットすることになった。この事実自体が、ユダヤ教の核となるヘブライ語聖書が、

いかに人間中心に記述されているかを表すこととなった。

(3) ユダヤ教の人間観に深く関連する重要な研究成果を、国際社会の舞台で極めて意欲的に発表してきた。ユダヤ教の人間観というテーマを中心として、ユダヤ学のさまざまな領域において、世界に向けて研究成果を発信し続けてきた研究代表者は、世界の第一線で活躍する日本人若手研究者として、国際的な研究者仲間から十分に認知されるようになった。

3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に進展している。

（理由）

5年間の研究期間のうちの最初の3年間において、ヘブライ語、英語、日本語という3言語で入力するシステムの基礎が出来上がったこと。ヘブライ語聖書、ラビユダヤ教文献、中世における諸文献を中心に広く収集してきたマイノリティに関する言説を元にいくつかの論考を発表してきたこと。本研究の内容や進展状況を一般社会に向けて紹介するWebサイト (<http://judaism.jp/index.html>) をすでに立ち上げて、公開したこと。ユダヤ教だけでなく、他の宗教との聖典比較研究への視座を与えたこと。ユダヤ教の人間観に深く関連する重要な著作や論文を英語やヘブライ語等の言語で執筆し、国際学界の舞台で極めて意欲的に発表してきたこと。

4. 今後の研究の推進方策

今後は、データベースのフォーマットの使いやすさを改良するなど技術的な問題点をクリアする。また、データベースの検索語を、

重要で明白なマイノリティ用語のみに限定しながら、それらの検索語について、できるだけ多数の文献からデータを厩大化させることで、よりコンパクトであるがより実際的なデータベースを目指す。さらに、当初の計画にはなかった近現代ユダヤ文学からのデータ入力も精力的に進める予定である。古代や中世のみならず近現代のユダヤ文学作品での人間観、マイノリティ観を付け加えることが、包括的なユダヤ教研究として望まれるところであると判断されたからである。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

① Naoya Katsumata, “The Style of the Arabic, Persian, Hebrew, and Syriac Maqama”, in Ayelet Oettinger and Danny Bar-Maoz (eds.), *Mittuv Yosef: Yosef Tobi Jubilee Volume*, Haifa: Haifa University Press, 2011, vol. 1, pp. 276-298

② Wout van Bekkum and Naoya Katsumata, “Importance of Saadia Gaon’s Poetry to the Construction of a Dictionary of Early Medieval Piyyut: Example of *Essa Meshali*”, *Journal of Semitic Studies* (Oxford University Press), Volume 56, Number 1, 2011, pp. 145-165

[学会発表] (計3件)

[図書] (計4件)

① Wout van Bekkum and Naoya Katsumata (eds.), *Giving a Diamond: Essays in Honor of Joseph Yahalom on the Occasion of His Seventieth Birthday* (Études sur le Judaïsme Médiéval 49), Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, 2011, vi + 328 pp.

② Joseph Yahalom and Naoya Katsumata, *Tahkemoni, or the Tales of Heman the Ezrahite by Judah Alharizi*, Jerusalem: Ben-Zvi Institute, 2010, 686 + lv pp., illustrations.

③ Naoya Katsumata, *Seder Avodah for the Day of Atonement by Shelomoh Suleiman al-Sinjari* (Texts and Studies in Medieval and Early Modern Judaism 24), Tübingen: Mohr Siebeck, 2009, ix + 221 pp.

[その他]

ホームページ

<http://judaism.jp/index.html>